



# 十和田市立 新渡戸記念館だより

Nitobe Memorial Museum Newsletter

第58号

「市長賞」「山車・太鼓車審査 会頭賞」を受賞した切田創遊会・新渡戸開拓物語



切田創遊会・山車前景



切田創遊会・見返りは新渡戸三代



中央町内会は「運行審査・観光協会長賞」を受賞



中央町内会・大行灯



## 十和田市の源流を求めて 一秋まつり自作山車 開拓の歴史をテーマに

本年の十和田市秋まつりでは稲生町中央町内会が安政6年(1859)稲生町の祭りです実際に使われた「稲生川工事通水絵巻 大行灯」を再現、切田創遊会は「新渡戸開拓物語」と題した自作山車を制作しました。なぜ今、山車のテーマに三本木原開拓を選んだのか、切田創遊会山車制作の中心的メンバー・小笠原博幸さんにお話を伺いました。

### Q どうしてこのテーマを選ばれたのですか？

不況が打ち続く中、それを打破するにはどうしたらいいのかと考えた時「十和田市の源流に戻ろう」と思ったのです。それで三本木原開拓を中心テーマに選びました。実は何年もこのテーマをやりたいと思っていましたが、山車のテーマとしては派手さが足りないというので、ずっと実現できませんでした。でも今年は絶対にこのテーマをやりたいと、町内会の皆にも理解してもらい、制作しました。また、三本木原開拓だけでなく、その開拓魂を受け継いで活躍した国際人・新渡戸稲造、稲生川の水源である十和田湖・奥入瀬、馬産地としての文化など、当地の素晴らしいものをすべて盛り込んだ山車にして、町全体を盛り上げたいという思いがありました。



今回の山車制作への思いを語ってくださった  
切田創遊会・小笠原博幸さん

### Q どの部分に一番苦労しましたか？

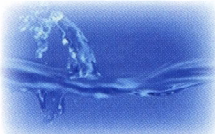
大きなテーマを一台に表現しなければならないのが大変でした。奥入瀬川は鮎子大滝、十和田湖は乙女の像で比較的簡単に表現できましたが、稲生川はどうしたらいいだろうと考えて、春に咲く川沿いの桜と穴堰工事のもっこ担ぎ、ばんづるを使った工事の様子、とうとうと流れる水、そして稲生川の恵みをあらわす稲穂と米俵を各所に配置しました。新渡戸傳さん、稲造さんと同様、この町の都市計画を行った新渡戸十次郎さんも大きく紹介したい、その思いで送り絵に十次郎さんの絵も掲げました。

裏面の切田八幡宮と駒踊りで故郷の文化を盛り込み、軍馬で賑わった歴史も表現しようとしたら、制作が当日朝3時、4時までかかってしまいました。もっとこうしかったという所もありましたが、十和田市長賞、会頭賞を受賞することができ、三連覇となりましたので、苦労が報われたように感じています。

—— 借り物でないテーマ、オリジナリティが山車に迫力を与え、見るものを圧倒していました。最近の秋まつりを見ていて、自らの原点に回帰した各町内の山車制作の盛り上がり、町の元気を感ずります。切田創遊会様、中央町内会様、受賞おめでとうございます。

十和田市・花巻市 新渡戸友好都市締結20周年記念 平成21年度企画展

## 命の水 稲生川



### ・・・関連イベント 稲生川穴堰ツアー

水が止まっている稲生川の鞍出山穴堰(トンネル)内部をはじめ流路を解説付きで見学します。

■日 時：11月6日(金) 8:30太素塚集合  
(9:00太素塚出発 12:00太素塚解散)

■定 員：20名 (対象：一般)

■参加費：実費300円 ■申し込み：10月31日(土)〆切り

※水路には90cmほどの深さの水があります。胴長、特長などの装備で参加いただき、足元には十分お気をつけ下さい。

※お申し込み・お問い合わせは、新渡戸記念館まで(TEL0176-23-4430)

【期間】 2009年11月1日(日)～2010年1月17日(日)

【場所】 十和田市立新渡戸記念館一階展示室

【水土里ネット稲生川 協力】

稲生川が流れて150年余、

そこに水が流れていることが当たり前になっていませんか？

農業用水・稲生川の過去、現在、そして未来を見つめる企画展です。



# NEWS

## 十和田市立新渡戸記念館 第1回 まちなか博物館

伝えたい、ふるさとの風景—

### 明治・大正・昭和 稲生町グラフィティ

7月9日(木)～8月31日(月) ※9月15日(火)まで延長



稲生町の古い街並み (作画: 平野郁太郎さん)

青森銀行十和田支店開設110周年記念ロビー展として、十和田市立新渡戸記念館 第1回 まちなか博物館「伝えたい、ふるさとの風景— 明治・大正・昭和 稲生町グラフィティ」を開催しました。十和田市稲生町で生まれ育った平野郁太郎さんによる稲生町の古い街並みの絵画を中心に、各方面から提供いただいた古写真や昭和30年代の広告などをパネル展示し、三本木原開拓を起源に持つ稲生町の歴史を紹介しました。展示を見て「あのころは・・・」と当時の思い出を生き生きと語る方や「稲生町がこんな風だったなんて知らなかった」と驚く若い方、展示を見ている人同士思い出話に花を咲かせる姿などが多く見られました。また、同時に新渡戸三代のフロンティアスピリッツをテーマとしたウィンドウ展示や、通りに面した窓ごしに平成19年企画展「三木野八景」パネルの移動展を行いました。三木野八景を見た稲生町在住の桜田麗子さんは「稲生橋の絵からは当時の生活の会話が聞こえそう。昔と今がともに紹介されているのを見て、単に懐かしいというのとは違う、何か“貴い懐かしさ”を感じた」とお話ししました。他にも多くの方から感想をお寄せいただき、「博物館」という特別な場所ではない日常の“まちなか”に展示したことで、まさに住む人が“歴史”という共有の財産を通じて絆を深め合える「交流の場」にできたことが、大きな収穫だったと感じました。

★このパネル展は、12月から十和田市立中央病院に巡回展示します。



青森銀行ロビー展 稲生町グラフィティ



「三木野八景」パネル移動展



新渡戸三代のウィンドウ展示

夏休み子ども企画 7月26日(日)・8月2日(日)・8月9日(日)

### 太素の森のお話し会 —むかしばなしで三本木原開拓を知ろう!—

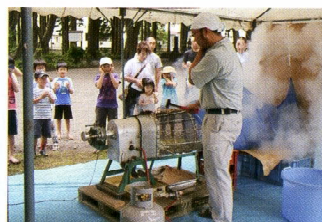
夏休み期間の日曜日、市民ボランティアの協力により全3回のプログラムで「太素の森のお話し会—むかしばなしで三本木原開拓を知ろう!—」を実施しました。開拓の歴史をベースに郷土史愛好家・沢口駿三夫さんに創作いただいた民話の紙芝居公演のほか、昔のおやつや遊びの体験を行い、過去の時代と現在の自分、そして地域の人とのつながりを感じられる場としました。子供たちへのアンケートでは特に昔のおやつ体験が好評で「おやつづくり方を聞いたので家でもつくってみたい」「おやつやむかしばなしがとっても楽しかった」「なかなかできない経験ができた」などの感想が目立ちました。今後も記念館は地域の子どもたちの学びと遊びの場となるよう、活動していきたいと思ひます。



バオリとゆかた姿の語りボランティア三浦直子さん(上)と中村陵子さん(下)



民話紙芝居「三本木たいのかっぱ」(作画: 福沢健悦さん)



丸井精米工場さんのドンきみ実演が大人気。語りボランティア小笠原正さんがこうせんなど昔のおやつの思い出を語りました



ボランティア沢口駿三夫さん、石川原光雄さん製作の竹馬、ずぐり、紙でっぽうなど昔のおもちやが大活躍

## 博物館実習生レポート 10日間の実習を終えて

平成21年度第1期博物館実習生 [期間: 平成21年8月25日(火)～9月5日(日)]  
北里大学獣医畜産学部動物資源科学科4年生 鈴木 晴香

北里大学生として十和田市に越してきた当初、町の中を流れる人工的な川と碁盤目状の街並みに驚きました。その後、大学で十和田市のなりたちを学び、市の歴史に興味をもち、実習先として新渡戸記念館を希望しました。紙芝居、解説シート等、展示補足資料の作成では、文字の大きさやレイアウト、文章構成などにさりげなく光る作成者の配慮に気付くことができました。また、実習中に多くの小・中学生が訪れ、三本木原開拓の歴史、新渡戸三代について学んでいく様子を見て、博物館が郷土への愛をはぐくむ場であることがわかりました。そうした環境の中で育った子供たちは将来地域活性化の要となります。博物館は博物館だけでなく、地域と連携し、盛り上げていく役割を担っていることを肌で感じました。10日間丁寧に指導していただきありがとうございました。



課題で鈴木さんが作画した紙芝居「新渡戸物語」。脚本は昨年度第II期博物館実習生・小宮山園実さんが制作したもの





開催報告



新渡戸稲造のまなざしシリーズ企画展 第一弾

afghan embroidery

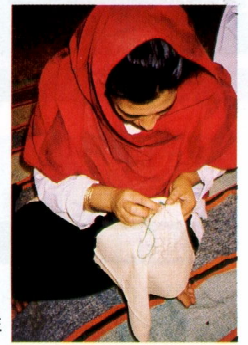
アフガニスタン刺繍展

平成21年7月1日(水)～7月31日(金) ※8月16日(日)まで延長

現在記念館は、「世界に通ずる私たちのローカル博物館」を目指し、地域にも世界にも開かれた、まちづくりの拠点となるべく活動しています。今回の企画展は、市民との共創による展示活動として、ボランティアの市民サポートキュレーター新渡戸富恵さんに企画、運営をお願いしました。



展示の様子



刺繍するアフガン女性

アフガニスタン刺繍展の企画について

新渡戸記念館ボランティア 市民サポートキュレーター 新渡戸 富恵

今回は「新渡戸稲造のまなざしシリーズ」の第一弾ということでしたので、異文化を体感してもらえよう場を演出しようと考えました。そこで、私自身が仕事をきっかけにもっともはまった国でもあり、日本でも9.11以来、少しずつ注目を集めてきた熱い国「アフガニスタン」のことを文化的な方面から紹介することとし、多くの人の協力を得ながら準備をしました。どのような形で表現したらよりわかりやすく、親しみやすいか、試行錯誤し、身近なもの(刺繍、木工品、写真)から、知られざるアフガニスタンの奥深い魅力を楽しんでいただき、今日的な問題にも目を向けてもらえるよう試みました。会期中には、資料を提供して下さった西垣敬子さん(宝塚アフガニスタン友好協会)から話を聞く機会を設け、できる限り私自身も展示解説をさせていただきました。また、アフガニスタンの専門家である前田耕作先生(アフガニスタン文化研究所所長、和光大学名誉教授)の講演が、十和田市民大学講座第2講座(主催:十和田市教育委員会)にて開催されました。刺繍展を見に来てくださった方々が、もっとアフガニスタンのことを知りたいと講演に足を運んでくださいました。これは、本当にうれしかったです。協力して下さった方、来館・来場して下さいました皆さんお一人ひとりに、心よりお礼申し上げます。



2006年3月、復興まただ中のアフガニスタンに行ったとき、再建されたカブール博物館の入り口の石碑に「歴史と文化が生き残れば、国もまた生き残ろう」と刻まれていました。度重なる戦火ですべてを失った人たちは、何に希望をもち、どのようにして明日を生きる力を見出したのでしょうか。この言葉は、前田先生の講演の中でも取り上げられていましたが、これを目にしたとき、誇り高さアフガニスタン人の真のプライドを思い知らされ、改めてアフガニスタンの偉大さを感じました。地方経済「冬の時代」に地域再生、まちづくりに動きだしている十和田市にとっても、この言葉は重要なメッセージを含んでいるのではと思います。「世界に通ずる私たちのローカル博物館」として、記念館が世界に開かれた窓であるとともに、地域から世界へ発信できる場であってほしいと願っていますので、今回の企画がその活動の一助になれば幸いです。

7月23日 ISCAアフガニスタン文化研究所 研修ツアー来館

各分野で専門家として活躍するISCAの方々に研修をかねて来館いただきました。



アフガニスタン文化研究所一行の研修で解説する宝塚アフガニスタン友好協会・西垣敬子さん



アフガニスタンの木工品をお貸し下さった安仲卓二さんによる解説。中央は前田耕作先生



23日の夜に開催された前田耕作先生の十和田市民大学第2講座「アフガニスタンの悠久の歴史と文化」



ISCAメンバーを中心に当地の歴史文化を知る手作りツアーを合わせて実施(水土里ネット羅生川・阿部俊技師の説明)

民族衣装の体験コーナー



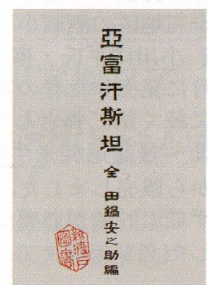
大人気だった民族衣装の体験コーナー。「ブルカってかぶったままでも意外と外がよく見えるね」「でもちょっと暑苦しいかも～」「きれいな色!」感想を口々に、体験を楽しんでいました

「三中トライやる」生が刺繍モチーフカードを制作



刺繍モチーフカードの絵を描いてくれた十和田市立三本木中学校職場体験プログラム「三中トライやる・ウィーク」生・櫻田貴也くん(同中2年生)

新渡戸稲造旧蔵書『亜富汗斯坦』を初公開



新渡戸稲造の蔵書印がある新渡戸稲造旧蔵書『亜富汗斯坦』(田鍋安之助編/昭和5年出版/当館所蔵)を今回初めて展示しました

アフガニスタン刺繍展を皮切りとした「新渡戸稲造のまなざしシリーズ企画展」では、文化外交の実践者・稲造に学ぶ企画を今後も続けたいと思っています。また、展示評価は入館者数ではかられがちですが、本来はいかに来館者の知的好奇心に訴え、探究心をくすぐる動機付けができるかだと思います。今回市民の積極的参画で地域との距離が一層近くなり、展示の幅も広がりました。今後も生涯学習機関として様々な発見や学びのある展示を心がけていきます。



## mini NEWS

### ■太素塚清掃奉仕

- ・ 6月7日(日) 7月5日(日) 8月2日(日) 9月6日(日)  
さわやかクラブ様
- ・ 5月7日(木) 9月19日(土)  
十和田市老人クラブ大学通り老成会様  
ありがとうございました

### 関連情報

#### ▶アジアのセーフティプロモーションをリードする先生方一行が来館

十和田市が世界保健機関 (WHO) の安心安全のまちづくりを推進する「セーフコミュニティ」に認証されることとなり、8月28日(金)認証式典が市内富士屋グラウンドホールで行われました。式典に先立ち、WHOアジアセーフコミュニティ認証センターのチョウ・ジュンピル センター長ご夫妻



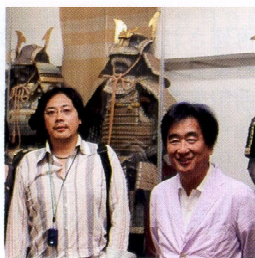
太素塚にてご一行と

ならびに式典とともに開催されるセーフティプロモーション学会及び国際シンポジウムに参加される韓国、中国、台湾の先生方をはじめ、県内外の学会関係者が来館され、十和田市の開拓の歴史や国際人・新渡戸稲造について興味深く見学されていました。

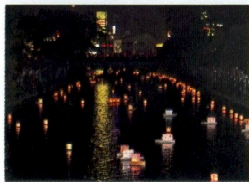
#### ▶作曲家・三枝成彰さんが来館

当館館長代理と親交のある作曲家・三枝成彰さんが「市民大学講座」(主催：十和田市教育委員会)での講演のため来十し、講演の翌日7月9日(木)当館に来館されました。

一階武将コーナーにて



#### ▶稲生川灯ろう流し開催



昨年、稲生川上水150年記念として36年ぶりに復活した「稲生川灯ろう流し」を、今年も太素顕彰会、十和田商工会議所、(株)十和田市観光協会の共催で8月16日(日)開催し、およそ3,500人が見守る中、約300個の灯ろうが流されました。昨年早かった稲生川の水流や水量の調節も、水土里ネット稲生川の全面的協力により成功し、美しい灯ろうの光を追って、川辺を遠くまで歩く人の姿が多く見られました。

#### ▶酒縁研究会で『夏の稲之助』限定販売

上十三地区の酒販小売店で結成する酒縁研究会(代表 小川洋平氏・事務局長 上山一郎氏)は本年5月に発売した春の花見酒「純米にごり・稲之助」に続く第二弾として「～涼味さわやか 夏の稲之助～無濾過純米生酒」限定200本を7月31日(金)から販売しました。この商品は濾過・火入れをせず低温貯蔵が必要なため、完全予約販売となりました。



#### ▶写真家・岩木登さんが当館に写真2点を出品

2009年キャノンカレンダーの写真を手がけた十和田市出身の写真家・岩木登さんが、現代美術館での写真展「原生の鼓動+」〔9月1日(火)～13日(日)〕に先駆け当館エントランスに写真2点を出品されました。



### 活動報告

#### ▶館長講演会

6月28日(日)日本法律家協会関東支部第55回年次総会(東京會館)で、館長が「新渡戸稲造を育んだ父祖の三本木原開拓」の演題で講演を行いました。

#### ▶小学校団体見学の稲生川工事体験

今年度から三本木原開拓の勉強のため来館する小学校の団体に対して、稲生川工事体験(もっこ担ぎ体験と穴掘り工具体験)を実施し、格闘での対応とともに好評いただいています。



#### ▶フリーマガジン「ちょこっと」第6号にコラボレーション記事を掲載

稲生町中央商店街フリーマガジン『ちょこっと』ならびに十和田市現代美術館とのコラボレーション記事「歴史の街稲生町でアートと出会おう2」を、同誌第6号(8月10日発行)に掲載しました。当館第1回稲生町まちなか博物館(期間：7～8月/場所：青森銀行十和田支店)で展示した『十和田観光 三本木商工名鑑』(昭和31年出版)に掲載のレトロ広告を中心に「稲生町広告グラフィティ」として構成するとともに、当館企画展「命の水 稲生川」〔会期を11月1日(日)～翌年1月17日(日)に変更〕と現代美術館企画展「相撲オーラ展」を紹介しました。



#### ▶平成21年度第1回太素顕彰会定期総会を開催

6月17日(水)平成21年度第1回太素顕彰会定期総会を十和田商工会議所5F会議室で10時30分から開催。平成20年度事業報告ならびに収支決算報告について審議が行われ承認されました。

#### ▶博物館関係会議出席

6月25日(木)青森県立郷土館協議会(青森市)に館長が、6月12日(金)平成21年度青森県博物館等協議会理事会・総会(青森県立郷土館)に館長代理が出席しました。

### 編集後記

ここ十和田の夏の夜空を彩る花火ははろうじて開催されたが何かがおかしかった。暑いはずの8月、スイカをかぶりという気になれない年だったのだと思う。僕が通っていたカトリック幼稚園では毎月「こどものせかい」が配られたが、中でも谷内六郎?それとも甥の谷内こうたの方だったか?その絵本の回が大好きだった。「夏の夜空はサイダーのびん・・・」一番好きな本。冷夏でも星空が昔と変わらなかったことがせめてもの慰めだ。そういえば今年は梅雨明けの無いままいつのまにやら秋になった。うちの庭のナナカマドをついばむヒヨドリが特に愛らしく感じる今日この頃である。

(館長代理 新渡戸常憲)

#### ■ご利用案内

- ・開館時間：午前9:00～午後4:00
- ・休館日：毎週月曜日(祝祭日は開館) 年末年始(12/29～1/3)
- ・観覧料：大学生・一般210円(団体178円)
- 小・中・高校生52円(団体42円) ※団体は20名以上
- 十和田市は観覧料が無料となっています。

十和田市立 新渡戸記念館  
Nitobe Memorial Museum

URL www.towada.or.jp/nitobe/

発行日 2009年10月1日  
編集・発行 太素顕彰会・十和田市立新渡戸記念館  
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1  
Tel & Fax : 0176-23-4430  
Email : nitobemm@hi-net.ne.jp  
印刷 株式会社 岩間印刷